

# ワクチン1瓶7回接種へ

## 厚労相考え インスリン注射器活用

田村憲久厚生労働相は九日の記者会見で、米ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンを巡り、宇治徳洲会病院（京都府）が一瓶で七回接種できると発表し、インスリン用注射器の医療機関での使用を容認する考えを示した。現在使用している注射器では先端部に薬液が残り、一瓶で五回しか接種できない。河野太郎行政改革担当相は無駄を減らすため、七回打てる注射器の調達を検討すると表明した。

同病院は八日、インスリン用注射器を使えば一瓶で七回接種できると発表。皮下注射のため、コロナ用ワクチンを打つ筋肉注射用よりも針の長さが短く、人によっては筋肉まで届かない可能性はあるが、条件が合えば五回接種の注射器に比べ、四割の回数増が見込めると説明した。これを受け、田村氏は九日、七回接種について「決して否定するわけではない」と話し、河

野氏も「余剰分があれば調達も考え得る」と語った。

同ワクチンは一瓶〇・四五ミリを生理食塩水で薄めて二・二五ミリにし、一回分として〇・三ミリを注射する。計算上は七回分取れるが、注射器の先端部の空間に薬液が残ると、その分の接種回数が減る。一方、インスリン用の注射器は、針と注射器が一体化しており、薬液が残りにくい。

政府は現在、先端部の無駄な空間が少なく、六回打てる注射器の調達を急いでいる。厚労省は今年、六回接種が可能な注射器や注射針の製造・販売を二件承認した。このうち、大手医療機器メーカーのテルモが七回接種可能として開発した注射器も、六回用として今月五日に承認した。政府は六回用の注射器を一定量確保できた時点で、五回用から一斉に切り替える方針。政府の計画では四月中旬ごろまでは五回接種を続ける見通しだ。（坂田奈央）

## 7回分接種を公開

京都の病院

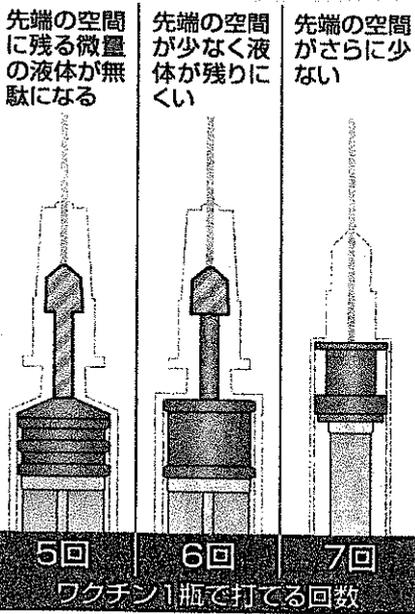
米ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンの接種について、インスリン用注射器を使えば一瓶あたり七回打てることを提唱した宇治徳洲会病院（京都府宇治市）は九日、接種の様子を報道陣に公開した。



末吉敦院長は「ワクチンの入荷状況が不安定な中、この方法を取れば接種できる人が四割増える。国は（インスリン用注射器使用を）推奨してほしい」と訴えている。

この日、看護師らがインスリン用注射器を使って瓶からワクチンを取り分ける作業を公開。インスリン用は皮下注射に用いるため、通常接種で使う筋肉注射用と比べると針の長さが半分程度と短い。人によっては筋肉まで届かない恐れがあるため、接種前に一人ずつエコー検査で皮下脂肪の厚さを測定し、注射器を使い分けていた。八日までに接種した職員のうち、約二割は従来の注射針を用いたが、八割以上はインスリン用で接種できたという。

ファイザー製ワクチンは、国が用意した通常の注射器で一瓶当たり五回しか接種できず、六回打てる特殊な注射器は数が限られている。同病院は、先端部分に薬液が残りにくいインスリン用注射器の構造を利用すれば、一瓶で七回の接種が可能だと発表している。



ワクチン1瓶で打てる回数

※注射一回当たりのワクチン使用量は0.3ミリリットル

ワクチン接種用注射器のイメージ図